

科目名	経営組織論		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2021年度 後期	単位数	2
担当教員	平澤 賢一		
内容および計画	<p>受講生の大半は、いずれ「会社」という組織に就職する。その組織の一員となるにあたり、会社組織とはどのようなものかということについて論じたい。</p> <p>企業の実例を紹介する映像資料を活用し、現代企業と日本や世界の実状に焦点を合わせた議論を展開する。そして、世界における日本企業の動態について受講生とともに考えていく。</p> <p>なお、本講義の受講生が就職活動を始める学生であることを考慮し、業界研究や企業研究を進めていくうえで、企業組織や業界の中の企業に関する基本的な知識を身に付けられるような内容も含めたい。</p> <p>【受講対象者】 現代企業論と合わせ、「会社」について深く学ぼうと考えている方。</p>		
1	「本講義のガイダンス」 ・現代企業論の復習 ・本講義の概要、履修上の注意、成績評価の方法		
2	「経営学とは」 ・組織としての企業と経営学		
3	「事例（1）：現代企業が直面する課題」 ・映画「モダンタイムズ」と経営学		
4	「企業組織の基本構造」 ・組織の種類 ・組織形態の変遷と企業事例		
5	「事例（2）：事業部制」 ・松下幸之助氏と事業部制：そして今は？ ・映像資料を活用する		
6	「事業部制とカンパニー制」 ・組織構造の変遷の振り返り ・ソニーが採用したカンパニー制：そして今は？		
7	「組織行動論①」 ・モチベーションの理論		
8	「組織行動論②」 ・リーダーシップ論		
9	「事例（3）：意思決定」 ・あのGEがなぜ現状に至ったか ・アジアの企業事例に学ぶ		
10	「組織理論①」 ・組織構想の特徴 ・複雑性、公式性、集権制		
11	「組織理論②」 ・調整のメカニズムと職能 ・組織デザイン		
12	「組織と戦略」 ・組織のドメイン ・事業領域と戦略領域		
13	「企業集団と系列」 ・旧財閥と今日の企業グループ ・戦後日本経済へ与えた影響とは		
14	「企業国際化の意味」 ・企業にとっての国際化、グローバル化の現状 ・映像資料を活用する		
15	「本講義のまとめ」		

	・受講生との議論と質疑応答				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	日本のマネジメントの名著を読む	日本経済新聞社 (編)	日本経済新聞社 (日 経文庫)	9784532113575	2016
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は後期直前に指示をする (副読本として、業界地図とすることも考えている)。 ・資料 (ハンドアウト) を適宜配布し、映像資料を活用する 				
参考書	榊原清則『経営学入門 (上) <第2版>』日経文庫 (ISBN:9784532112820)				
成績評価					
	評価方法			割合(%)	
	定期試験			75	
	小テスト and/or レポート			25	
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験にはA 4 (指定用紙) 一枚のメモ持込み可とする ・質疑応答での適切な返答、討議への積極的参加や貢献を評価 ・質問することで問題意識を高めること 				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代企業 (主に株式会社) の組織、組織間関係、企業と企業との関係についての基礎理解 ・現代の企業と日本の実状に焦点を合わせた議論を展開し、世界における日本企業の動態に関する基本的な知識を身に付けること ・これから就職活動を始める学生が、業界研究や企業研究を進めていくうえで、企業組織や業界の中の企業についての基本的な知識を身に付けること 				
先修条件	現代企業論の履修が望ましい				
実務経験	実務経験有り：外資系企業 (金融・コンサル) にて、新卒採用業務、証券管理業務 (顧客は海外機関投資家)、新会社設立支援業務、広報業務等に携わる。現業部門管理者としての実務経験も有する。以上の実務経験は本講義全般に関わる。実務経験からの知見も交えて講義を行う。				
その他					